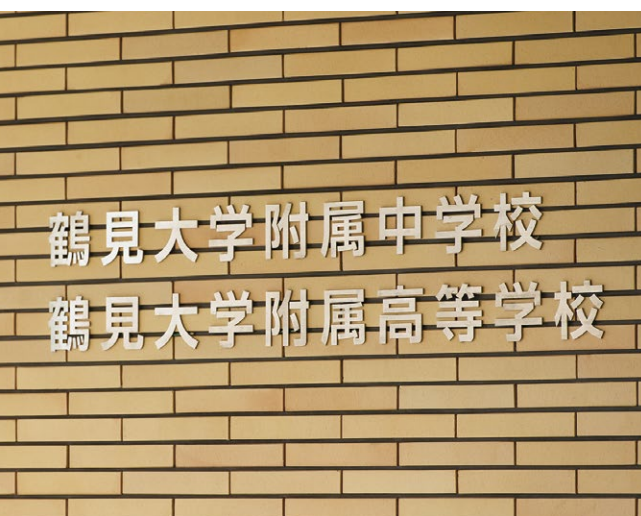
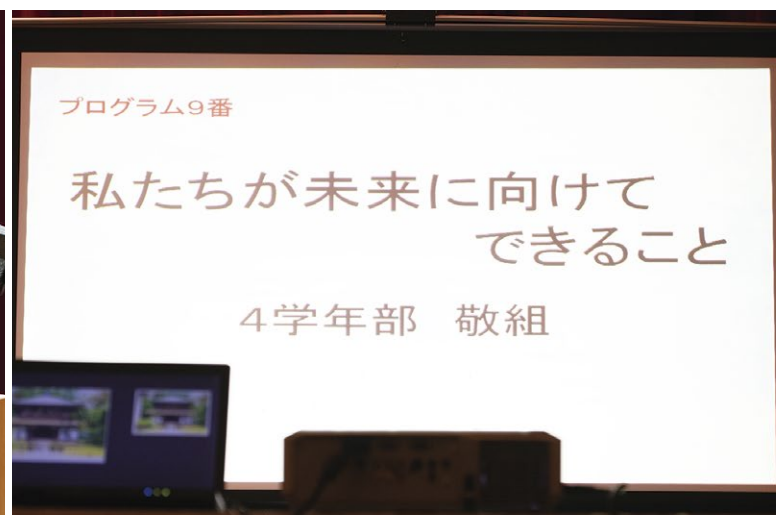




鶴見大学附属中学校・高等学校

自分を見つめ、他者を思う。
そこに成長する自分がある

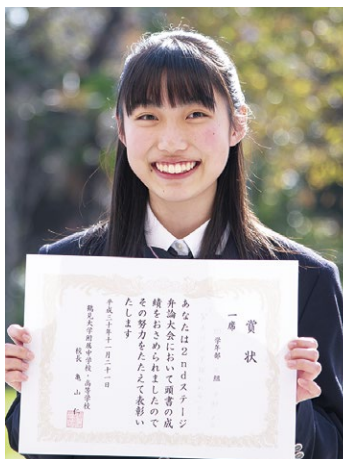
「学力向上」「人間形成」「国際教育」の3本柱を軸に
「学びの心で世界を変える」という教育目標を掲げている鶴見大学附属中学校・高等学校。
同校創立以来の伝統行事である『太祖降誕会』が先ごろ執り行われ、
その奉賛行事として弁論大会と合唱祭が行われた。
自らの思いを熱く弁じる生徒、クラスメイトとの一体感の中で熱唱する生徒たち。
そこに着実に成長している生徒たちの姿があった。



自分と向き合い、 心の思いを発信する

『太祖降誕会』とは總持寺を創建した常済大師（瑩山禪師）の生誕日（文永5年＝1268年11月21日生）を祝う式典。「感謝を忘れず、真人（ひと）となる」という教えのもとに、仏教、特に禪の教えに基づく人格形成を建学の精神としている同校が、創立以来大切にしてきた行事の一つだ。その奉賛行事として毎年、中3、高1各クラスからの代表弁士と仏教専修科生による「弁論大会」と、中1、中2の各クラスが課題曲と自由曲の2曲を歌う「合唱祭」が催され、今回も生徒たちによる熱弁と熱唱が繰り広げられた。

弁論大会は仏教主義学校連盟弁論大会出場の選考会を兼ねたもので、13名の生徒が弁士として登壇。壇上で緊張した表情を見せつつも、自ら設定したテーマで自身の思いを熱く語った。その中で、「努力は必ず報われる？」をテーマに、「人並以上の努力も大事だか、高みを見すぎずに、まずはありのままの自分を認めること、否定せずに受け入



弁論大会で最優秀賞を獲得した中野さん



指揮者としてクラスをまとめた服部さん



次回は指揮者をやってみたいという越後貫君

れることの大切さ」を説いた高1の中野まなさんが最優秀賞を獲得。分かりやすく丁寧に弁じた彼女の弁論は、自分の言葉で伝えることの難しさと大切さが伝わってくる内容だった。

中野さんは中3のときの弁論大会では聞き手だったが、「次は自分が」と強く思い、出場を決意。夏休みに文化祭や生徒活動、部活動などが重なり、思うように勉強ができなかった時に、周囲の友達が普段通りに勉強に取り組んでいる姿を見て今回のテーマを思いついたという。

他者との関わりの中で 自分を見つめる

弁論大会では個人にスポットが当たれるが、合唱祭ではクラスメートとの協

調性や団結力が重要なポイントになる。どのクラスも直前まで歌声合わせをして、本番に臨んだ。

中2の服部ゆず子さんは指揮を担当。「もともと仲の良いクラスですが、途中から男子がバラバラになってしまい、まとめるのに苦労しました。でも、根気よく一人ひとりに声をかけながら練習を続け、本番ではみんなの協力で一致団結して歌うことができました」と話す。一方、中1の越後貫暁君は、指揮や伴奏の担当ではなかったものの、クラスのまとめ役として活躍。「練習中にふざけてしまったり、おしゃべりをしたりしてクラスがなかなかまとまりませんでした。そんな時は、雰囲気のを和やかにしたり、ムードを柔らかくすることを意識して、クラスをまとめるようにしました」と振り返る。

同校の授業では、各教科ごとに設け

られた教科エリアの教室に移動して学習を進める。そのため授業と授業の間は、次の授業の準備や教室移動に費やされる。授業を離れ、クラスメイト全員が揃うのはホームベースでのホームルームや昼食時に限られ、日々の中でクラスが一体となる機会は少ない。そうした中で、合唱祭に向けてクラスの団結力を高めていかなければならず、練習中にまとまりを欠くこともあるが、それを乗り越えることで他者と協働する心が生まれ、一体感も強まってくる。

「本番までは大変なことが多く、練習では途中で挫折することもありました。でも、本番では一致団結して歌えたので、また指揮者をやりたいと思いました。自分が笑顔になると、みんなも笑顔になってくれる。そこがポイントでした」と手応えを感じた服部さん。越後貫君は「来年は指揮者をしてみたい」

と意欲を覗かせる。

3つのステージで 着実に成長する6年間

「学びの心で世界を変える」ことを教育目標に掲げている同校では、中高6年間で3つのステージ（基礎期、発展期、完成期）に分け、学習指導や進路指導を行っている。中高一貫ゆえに生じる中だるみを防ぐため、2年単位に到達目標を設定し、それを達成したうえで次のステージへとステップアップしていく仕組みだ。

合唱祭はクラスの中での自分を見つめるファーストステージでの取り組み。弁論大会は、自分と向き合いながら「自己理解と自立心」を育むセカンドステージでの取り組みだ。セカンドステージで

は、生徒自身が主体的に学ぶ機会を多く設け、思考力や判断力、表現力などを培い、未来を切り拓くためのサードステージへと進んでいく。太祖降誕会の弁論大会や合唱祭は、そうしたステージごとの成長を促す場であり、生徒自身が確認する機会でもあるのだ。

最後に、中野さんがこう話してくれた。

「素晴らしい友人たちと出会えたことに感謝しています。自分の意見や考えをしっかりと持ち、勉強でも部活動でもやりたいこと、やるべきことに頑張って取り組んでいる友人たちから、たくさんの刺激をもらっています。そんな友人に囲まれているからこそ、自分も成長できるんです」

セカンドステージの中で、自立し、自主的に学ぶ友人の刺激を受けながら、自身もしっかりと成長しているようだ。